

福島県復興祈念公園基本設計について

令和元年 5月

国土交通省東北地方整備局

福島県

福島県復興祈念公園では、広域的かつ未曾有の災害であった東日本大震災の犠牲者の追悼・鎮魂、震災の記憶と教訓の後世への伝承、国内外に向けた復興に対する強い意志の発信といった公園の目的をふまえ、「生命（いのち）をいたみ、事実をつたえ、縁（よすが）をつなぎ、息吹よみがえる」という公園の基本理念を具現化していくことが求められる。

公園整備にあたっては、公園全体の面積が約50haと広大なものである一方、復興の時間軸や周辺地域の復興の状況を十分に意識しながら、公園の整備及び管理運営を行っていく必要がある。基本設計においては、①震災から10年後の2021年、②特定復興再生拠点区域に認定された6町村の避難指示解除の目標時期である2023年、③震災から20年後の2031年、④震災から一定の期間が経過した50年後の2061年の4つの目標年を設定し、定められた基本理念をレイヤー化し、これらを重ね切り取ったものを目標年における公園の基本設計とする。

検討イメージ

① 生命（いのち）をいたむ

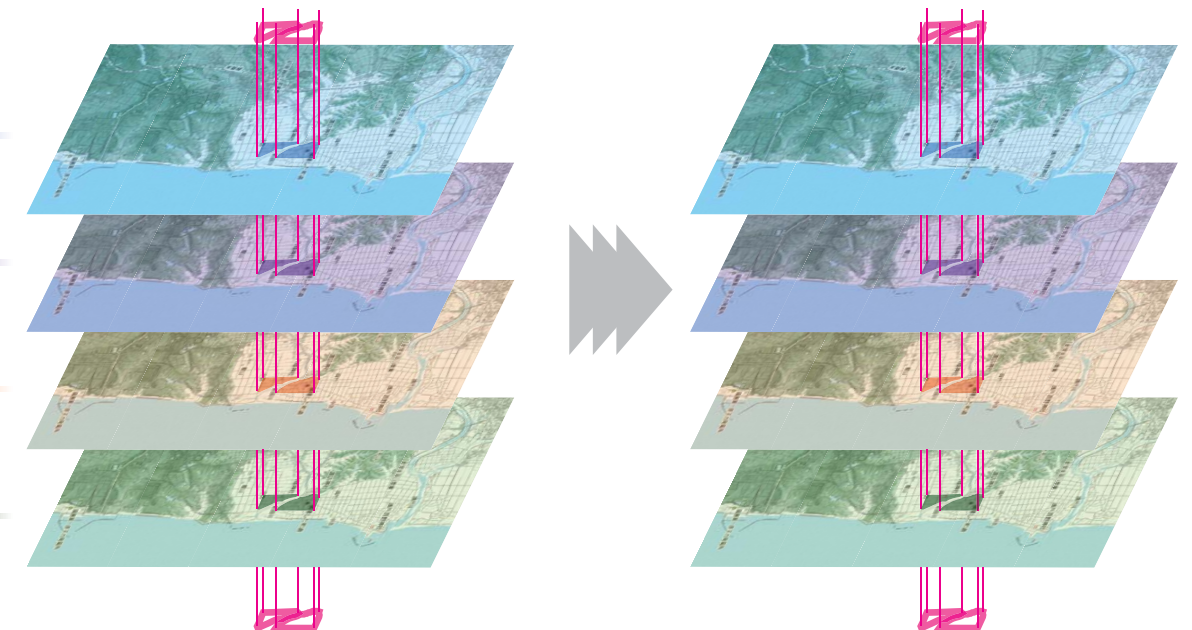
② 事実をつたえる

③ 縁（よすが）をつなぐ

④ 息吹よみがえる

震災から10年後（2021年）

震災から50年後（2061年）



4つの基本理念 × 4つの時間軸

I ～ 2021 年 (震災から 10 年後)
10 年という節目を迎える年

II ～ 2023 年 (震災から 12 年後)
特定復興再生拠点区域に認定された 6 町村の避難指示解除の目標時期

III ～ 2031 年 (震災から 20 年後)
20 年という節目を迎える年

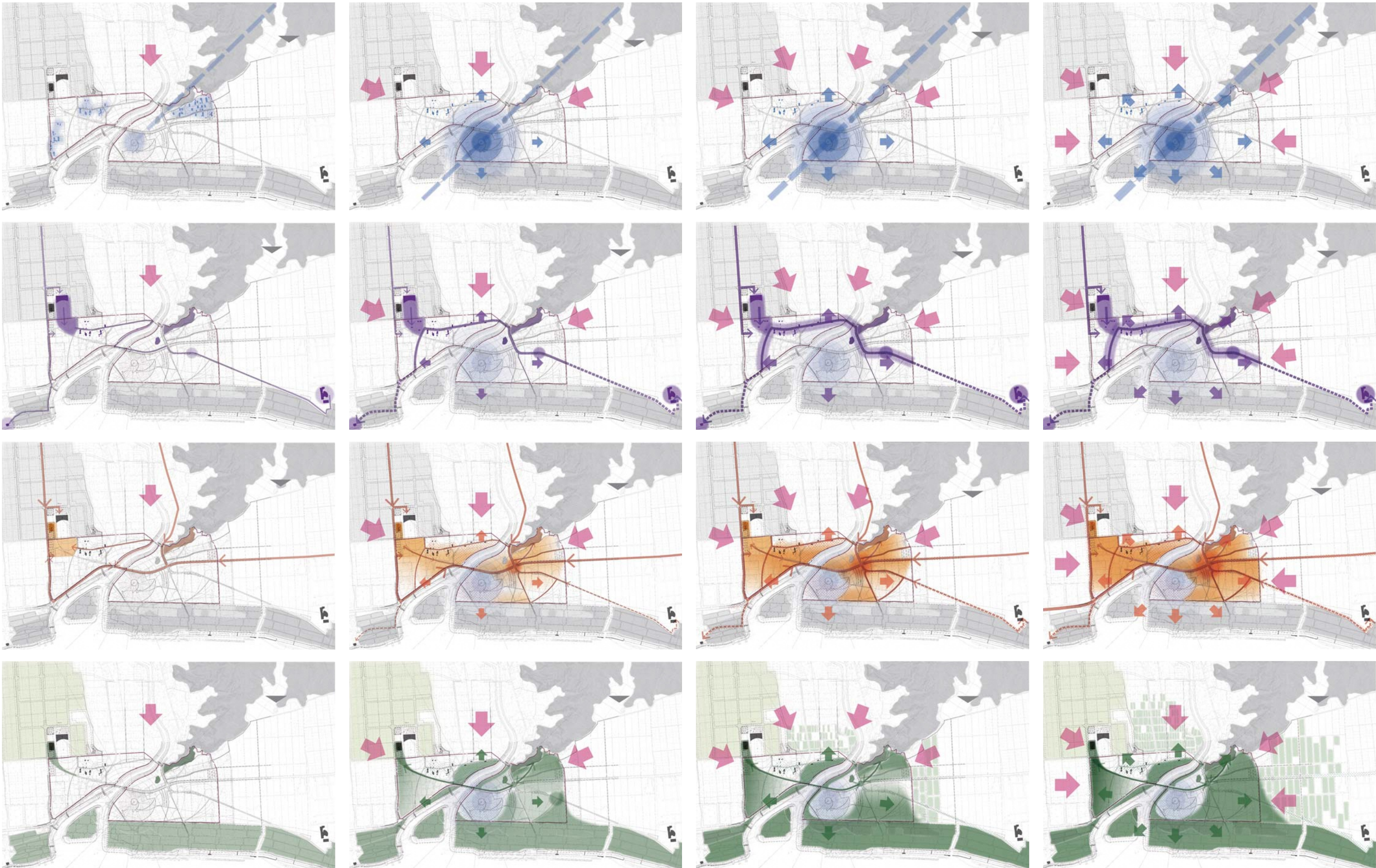
IV ～ 2061 年 (震災から 50 年後)
50 年という節目を迎える年

生命 (いのち) をいたむ

事実を伝える

緑 (よすが) をつなぐ

息吹よみがえる



時間軸における各レイヤーの変化

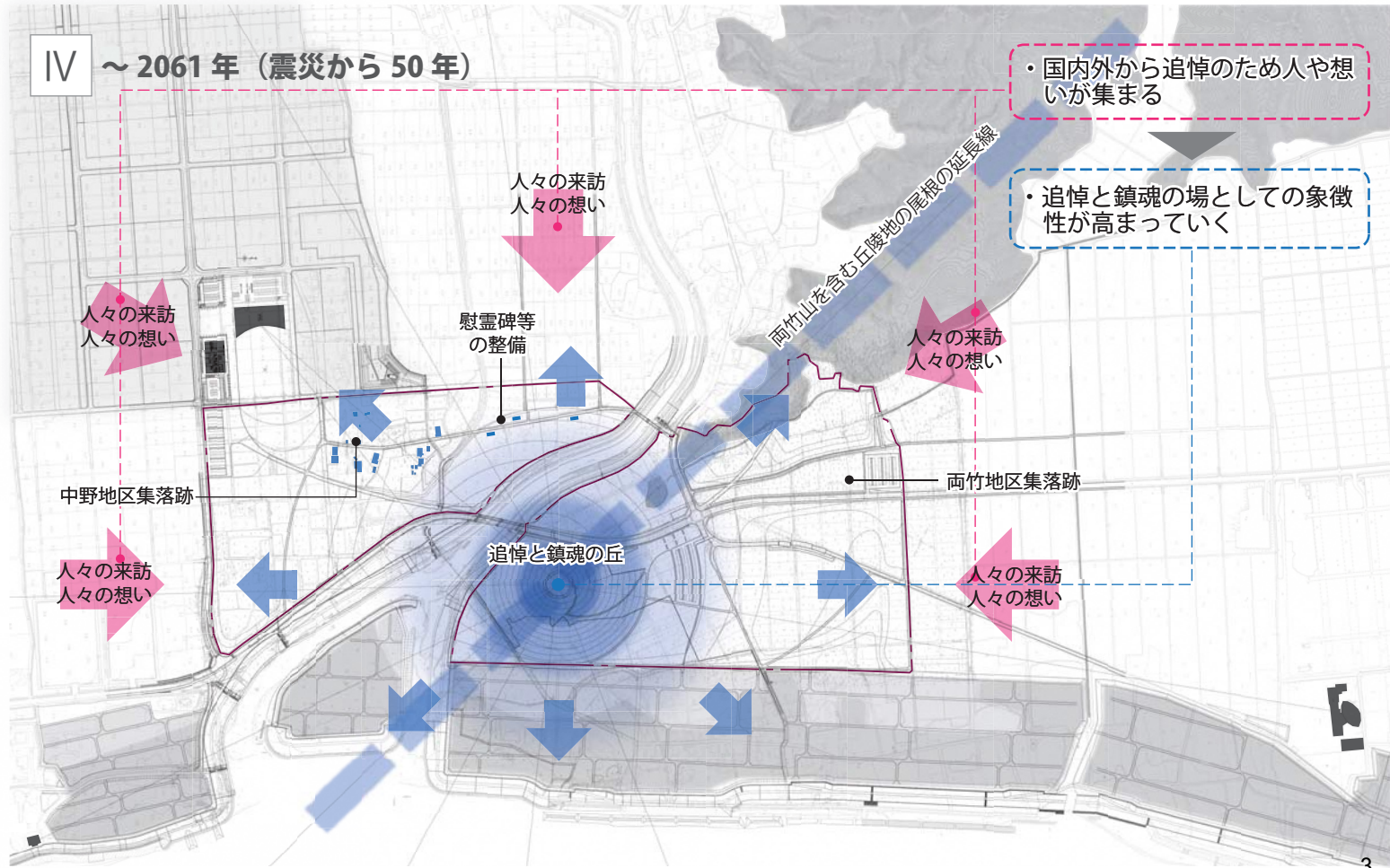
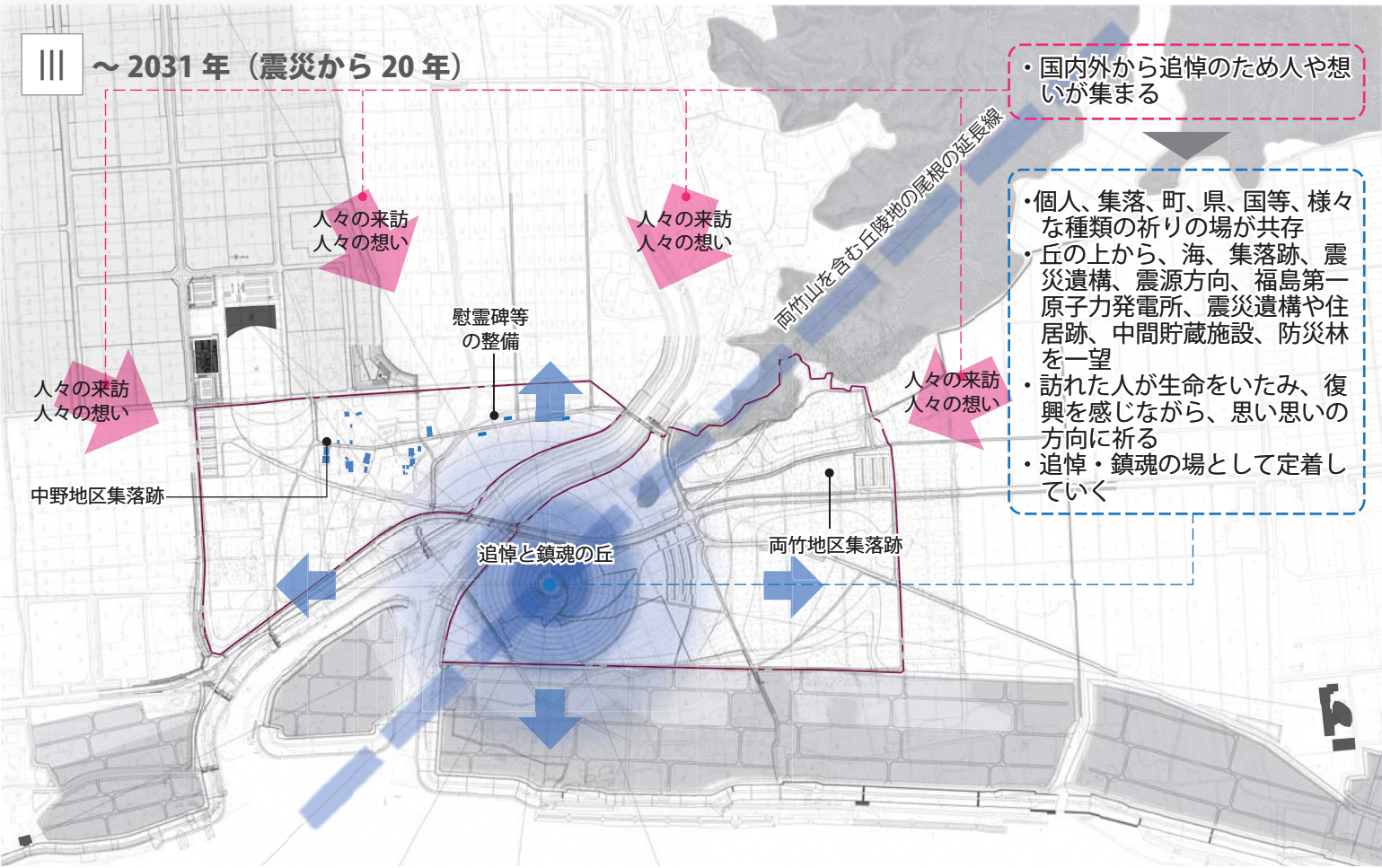
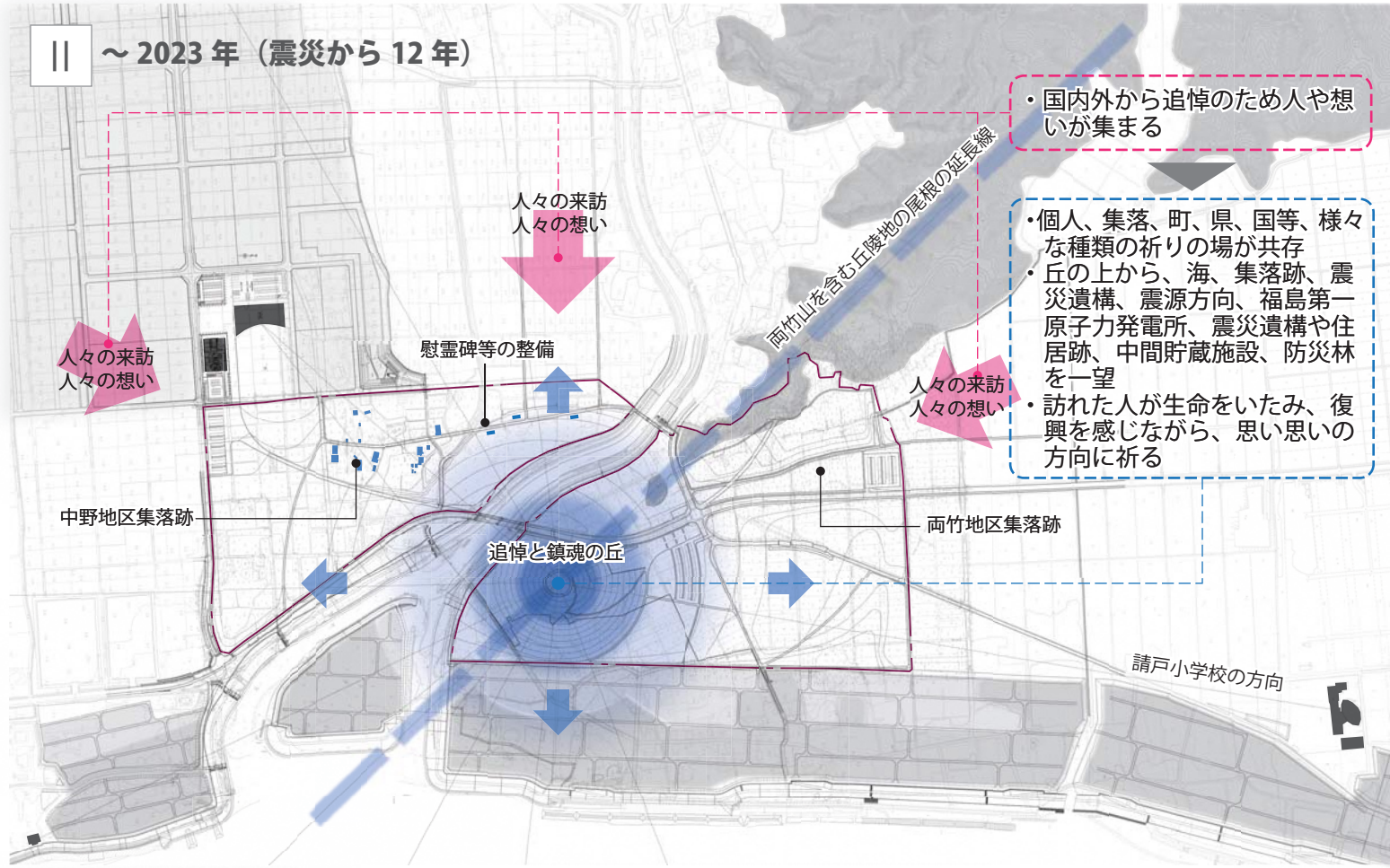
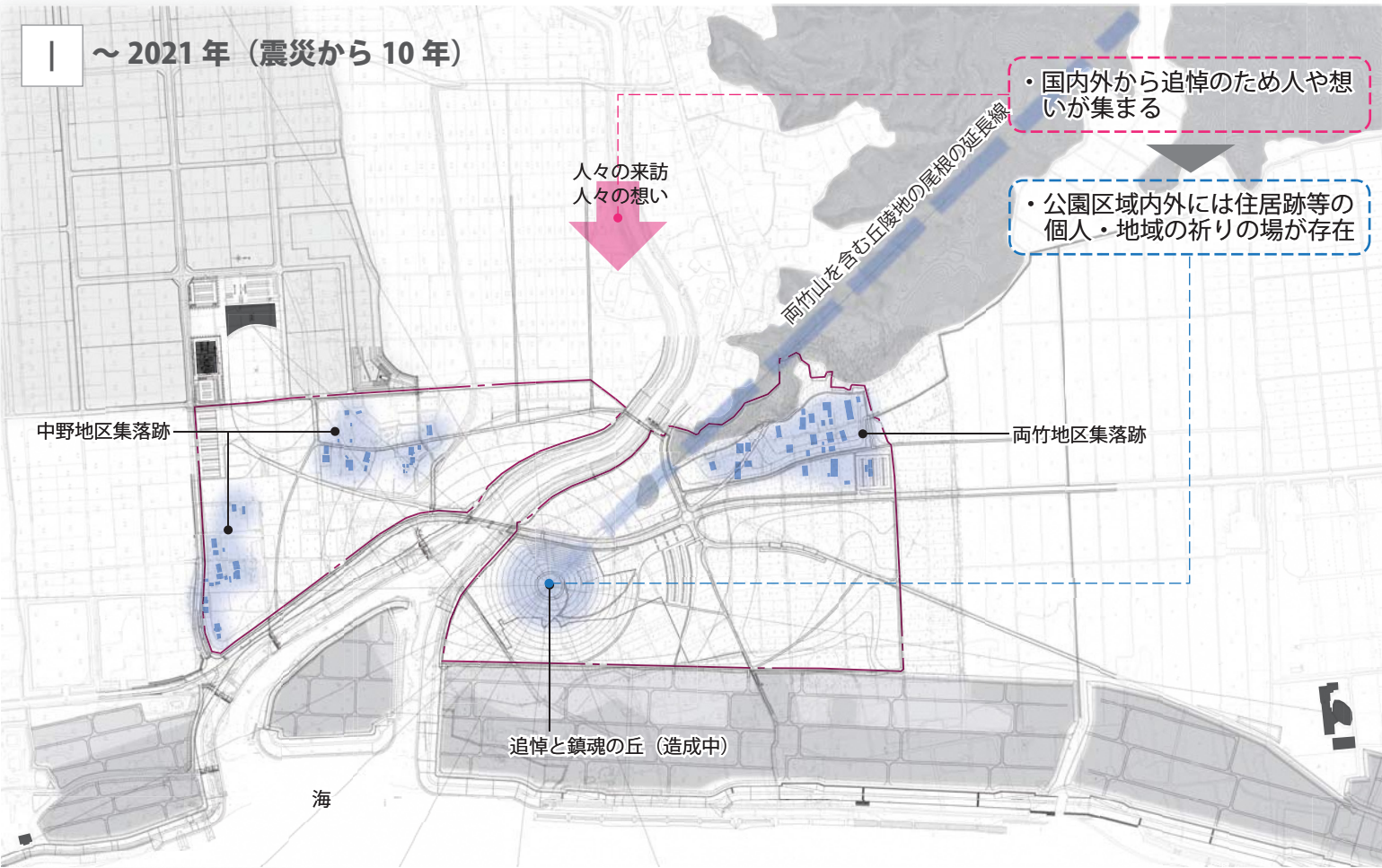
様々なタイムスケールを持つ要素・事象を4つの基本理念ごとにレイヤー化し、Ⅰ～Ⅳの時間軸において、レイヤーの変化を整理。

1 生命（いのち）をいたむ

【基本方針】
・福島県、さらには被災地全体の追悼と鎮魂の中核的な場所として、国内外のあらゆる人々が集い、東日本大震災により犠牲となったすべての生命（いのち）への深い追悼と鎮魂の場を整備します。

⇒福島県・被災地全体の追悼と鎮魂、東日本大震災により犠牲となったすべての生命
+ 集落跡（住居跡）の個人の祈りの場

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
生				
事				
緯				
息				

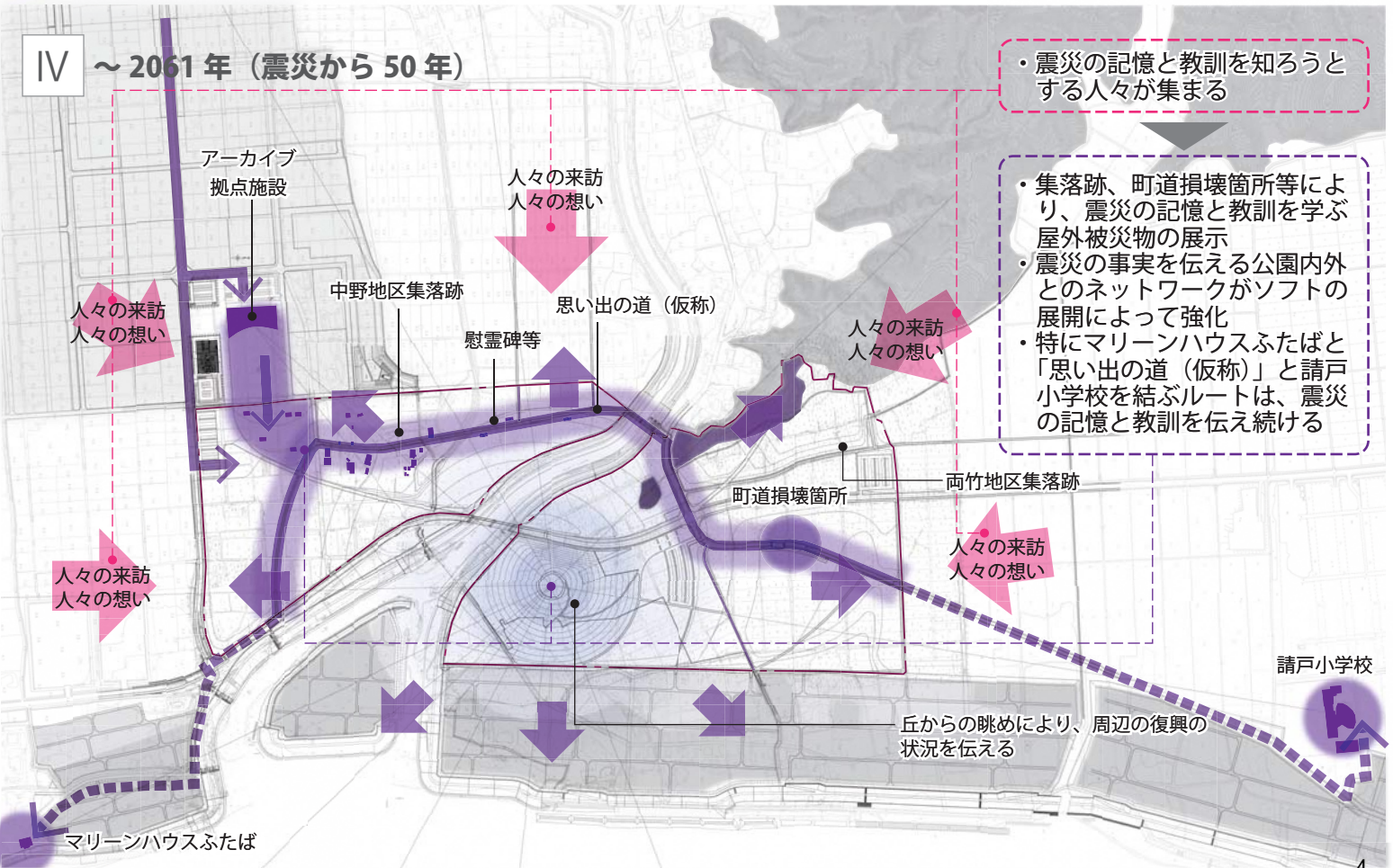
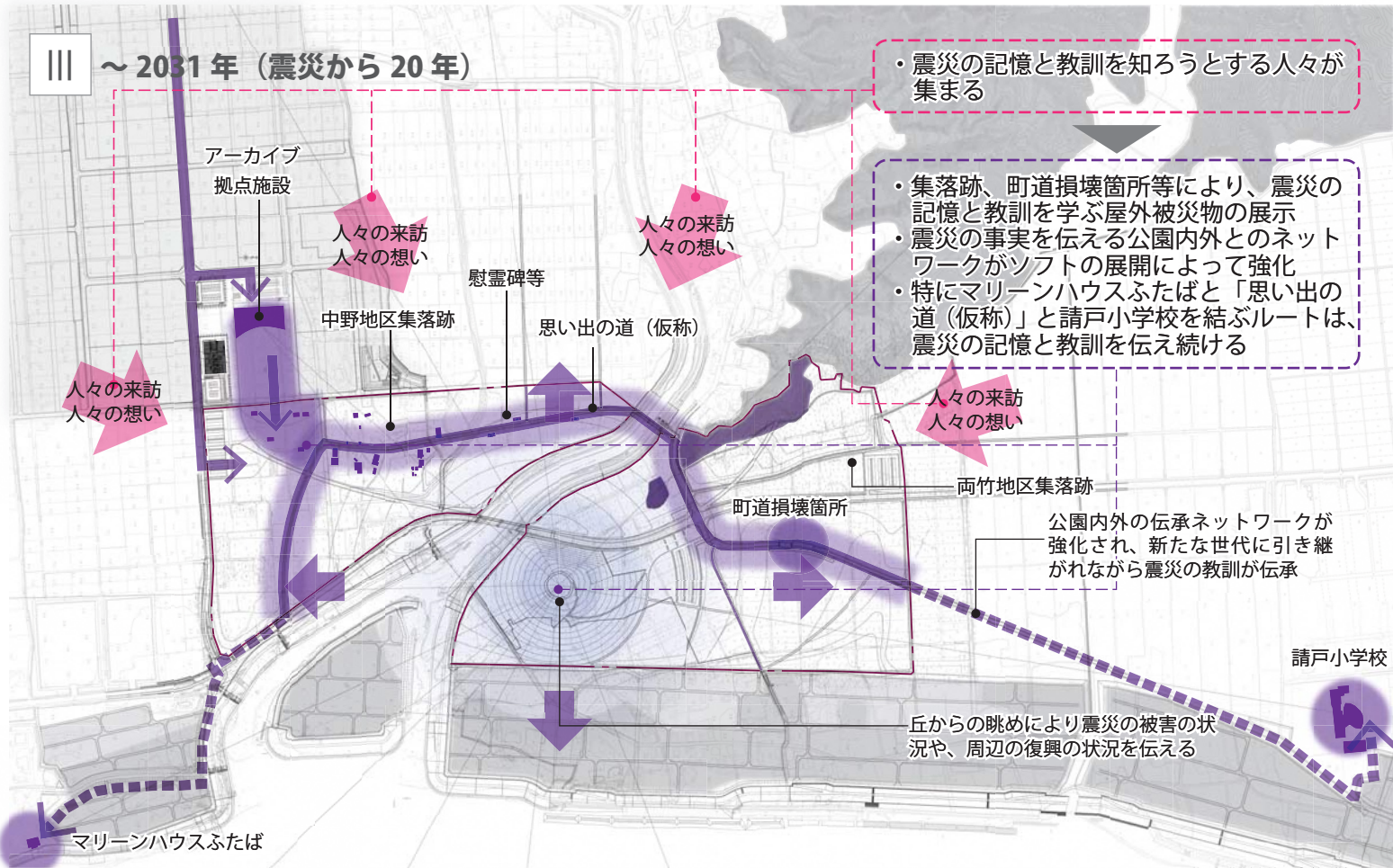
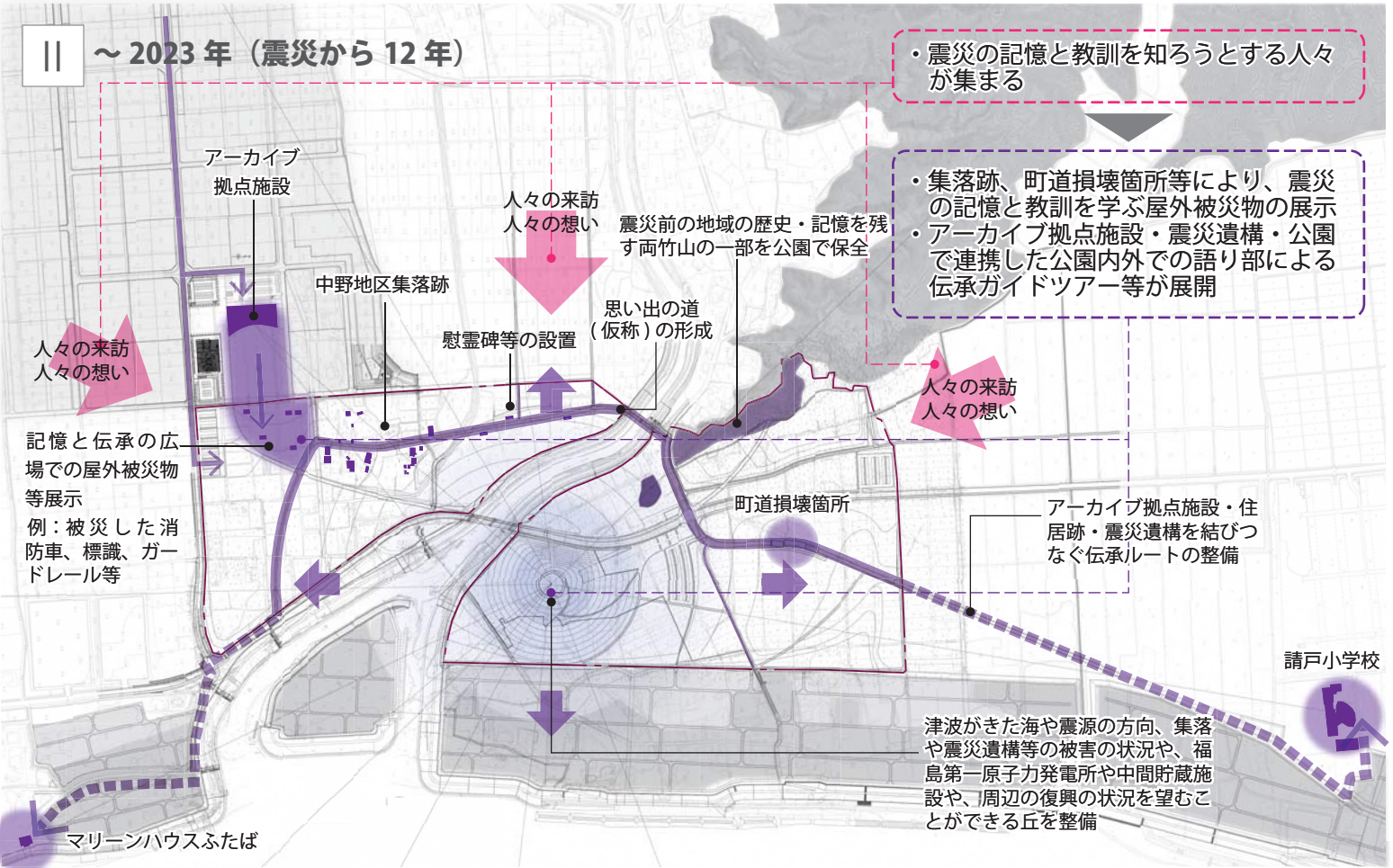
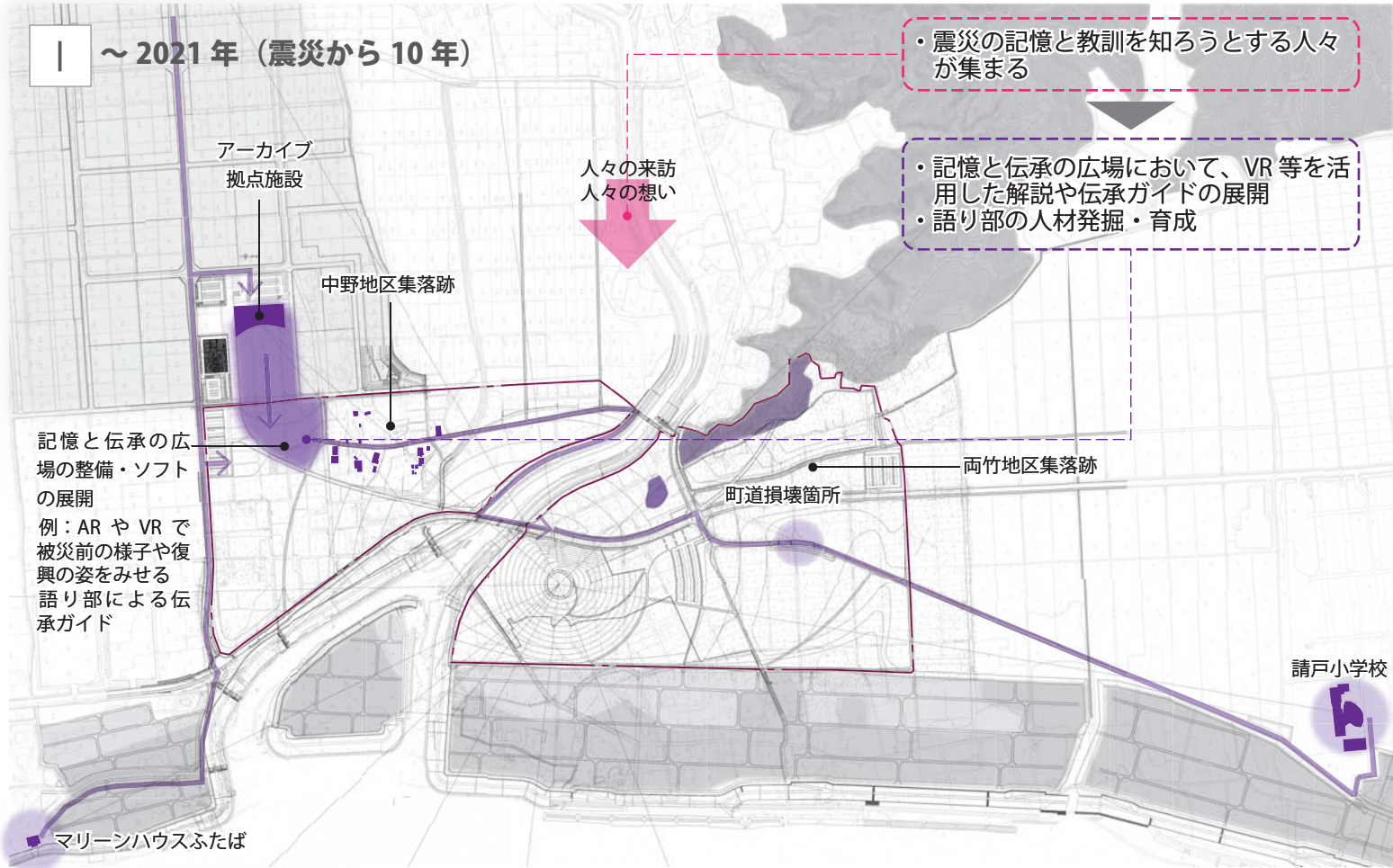


2 事実をつたえる

【基本方針】
・原子力災害の教訓・知見の継承、世界への情報発信等を行うためのアーカイブ拠点施設等と連携し、震災による被害の原因となった震源方向や福島第一原子力発電所等を望み、公園で東日本大震災の被害や津波の高さを実感する場を整備します。公園では、福島県内の自治体が予定する震災遺構を活用した伝承活動と連携し、特に、次世代に切れ目なく震災の記憶と教訓を引き継ぎます。

⇒震災の記憶と教訓の伝承、アーカイブ拠点施設、震源方向、福島第一原子力発電所、東日本大震災の被害、震災遺構、伝承活動
+ 集落跡（住居跡）、町割り、被災物、思い出の道（仮称）、被災前の姿を変わず残す両竹山、海

	I	II	III	IV
生				
事				
録				
息				

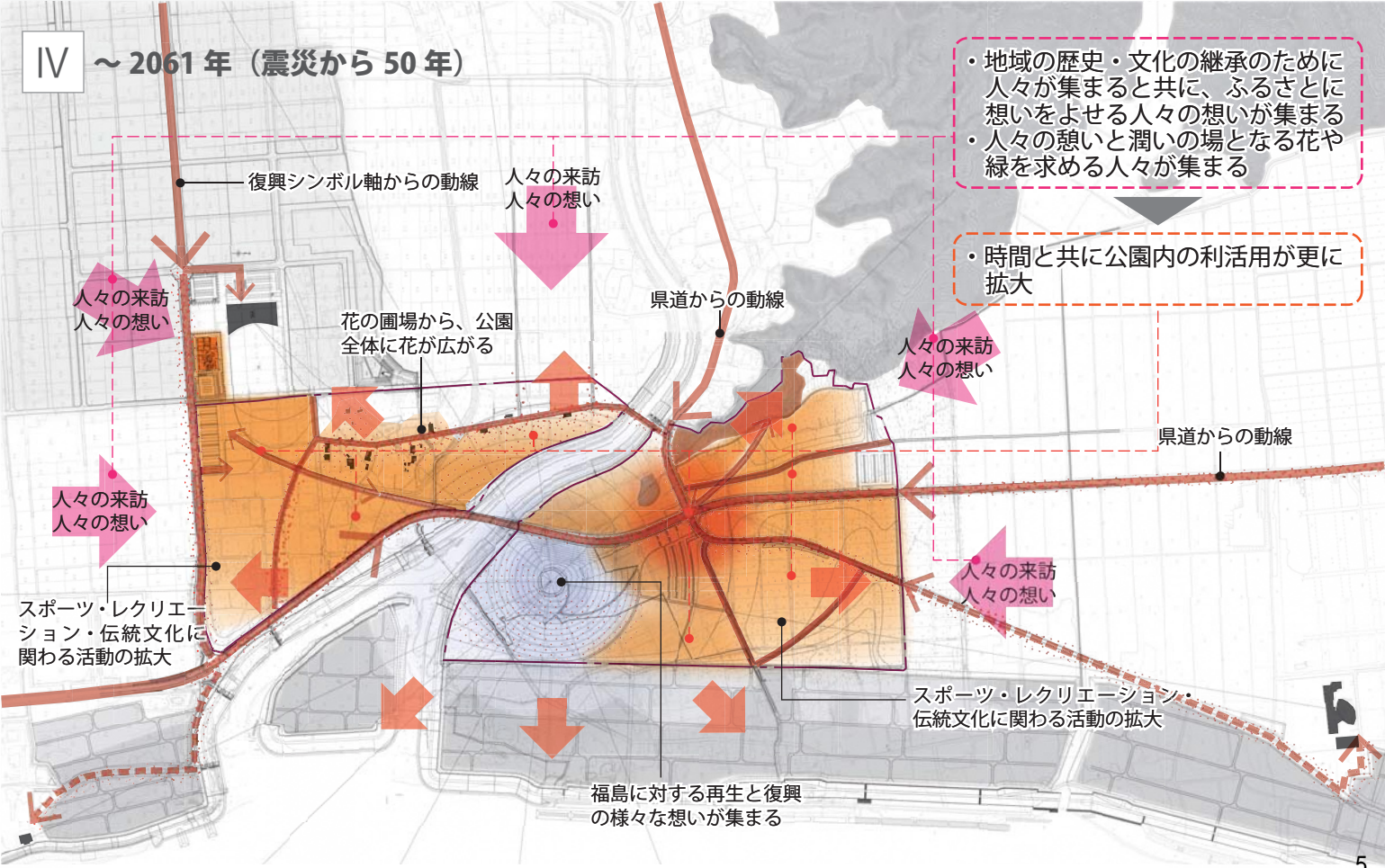
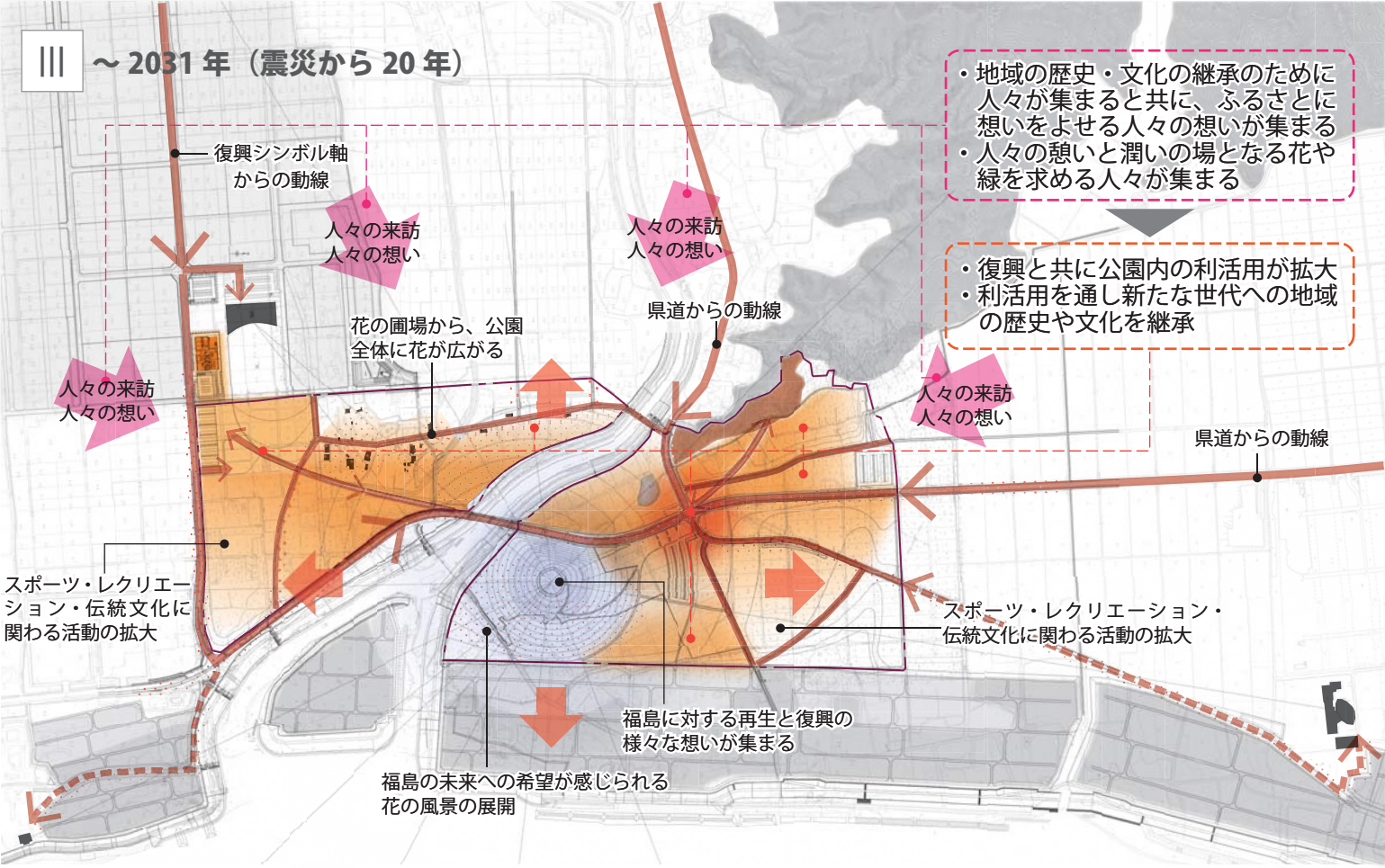
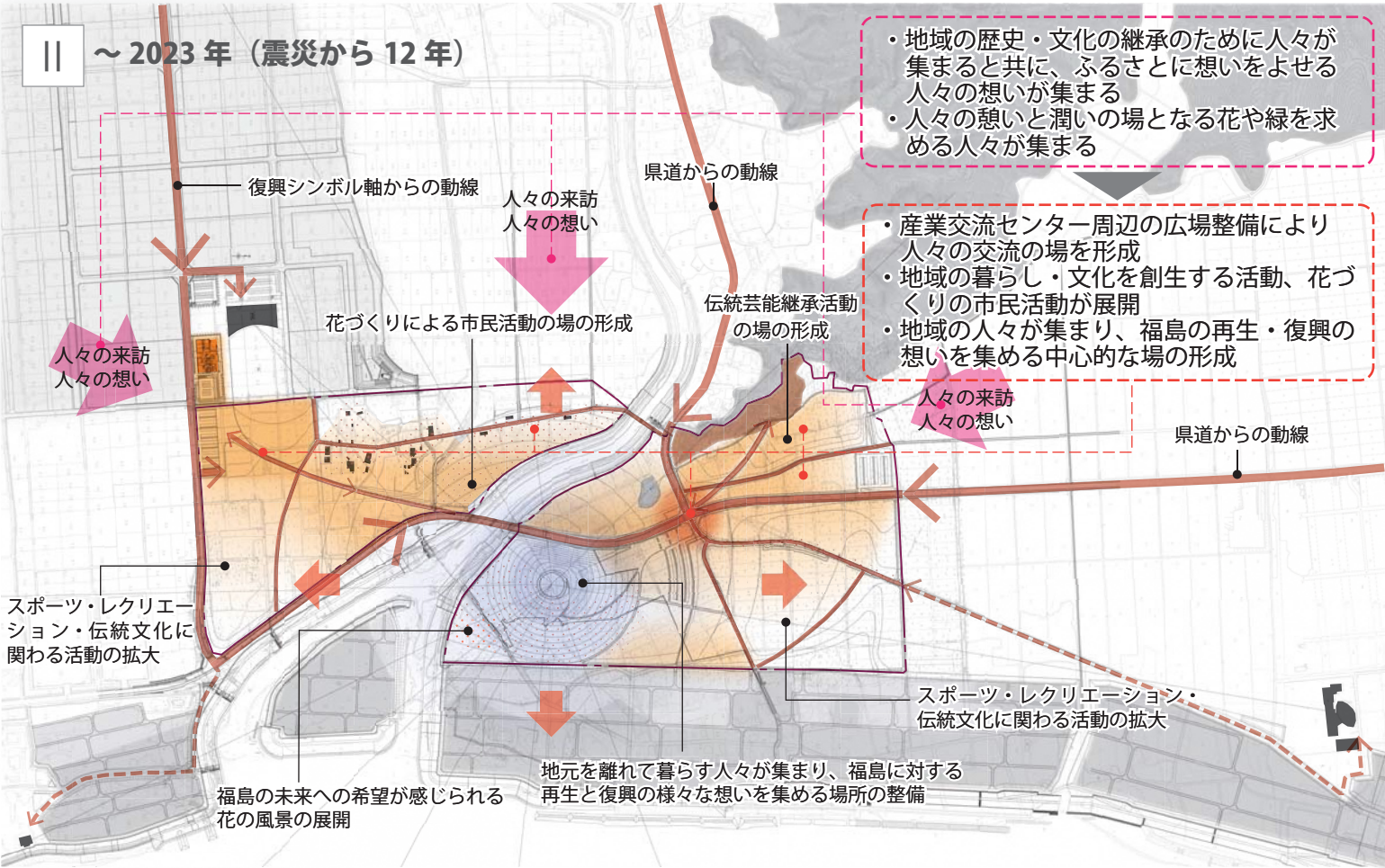
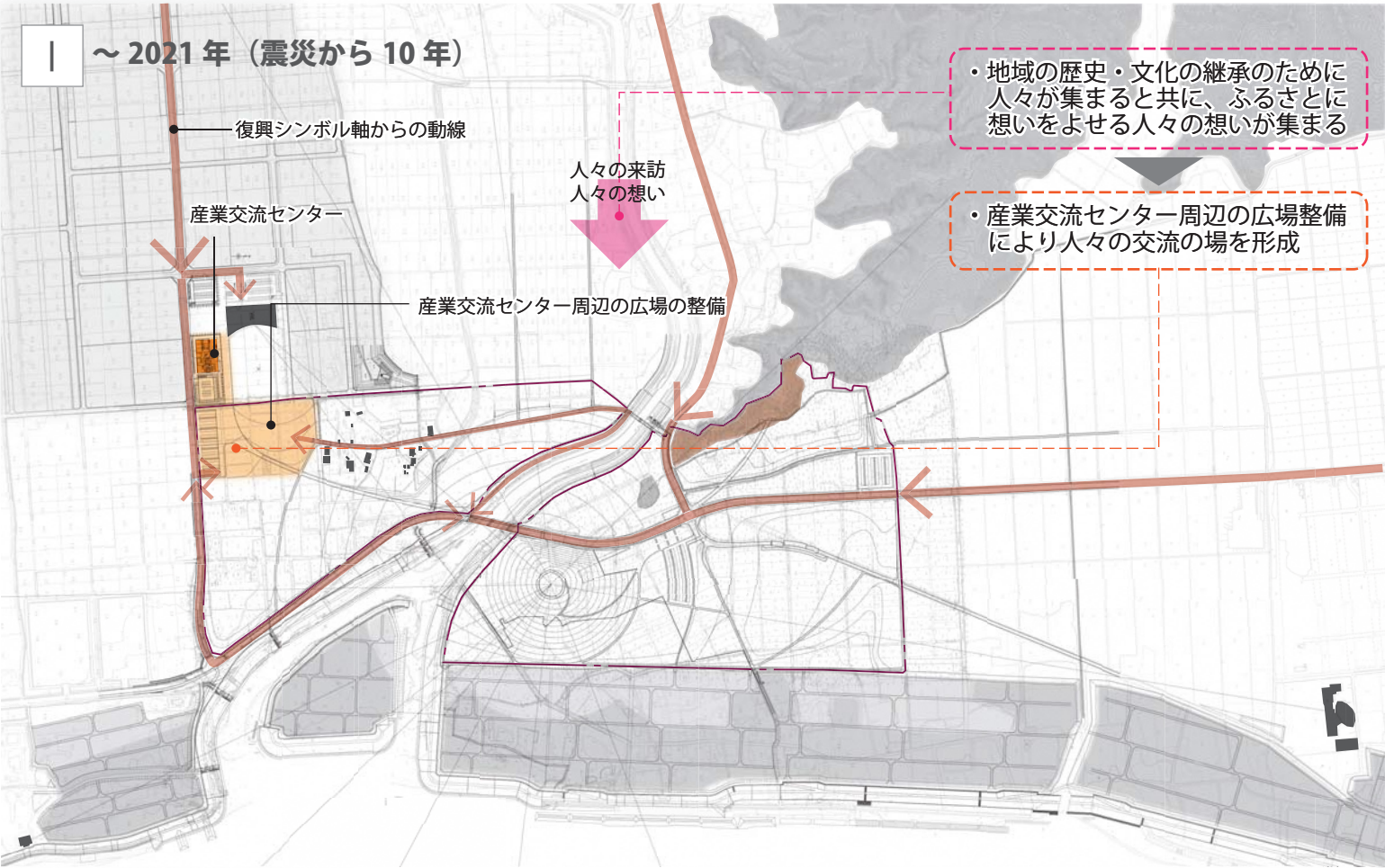


3 緑（よすが）をつなぐ

【基本方針】
・震災以前からの地域の歴史・文化を継承するとともに心を癒す花の風景づくり等市民活動の拠点を形成し、ふるさとの記憶を想起させ、現在避難されている人々を含め人々が支え合い助け合うための心の拠り所となる場を整備します。

⇒震災以前からの地域の歴史・文化の継承、花の風景、市民活動、ふるさとの記憶、人々の心の拠り所
＋伝統行事継承、生業の復興

	I	II	III	IV
生				
事				
緑				
息				

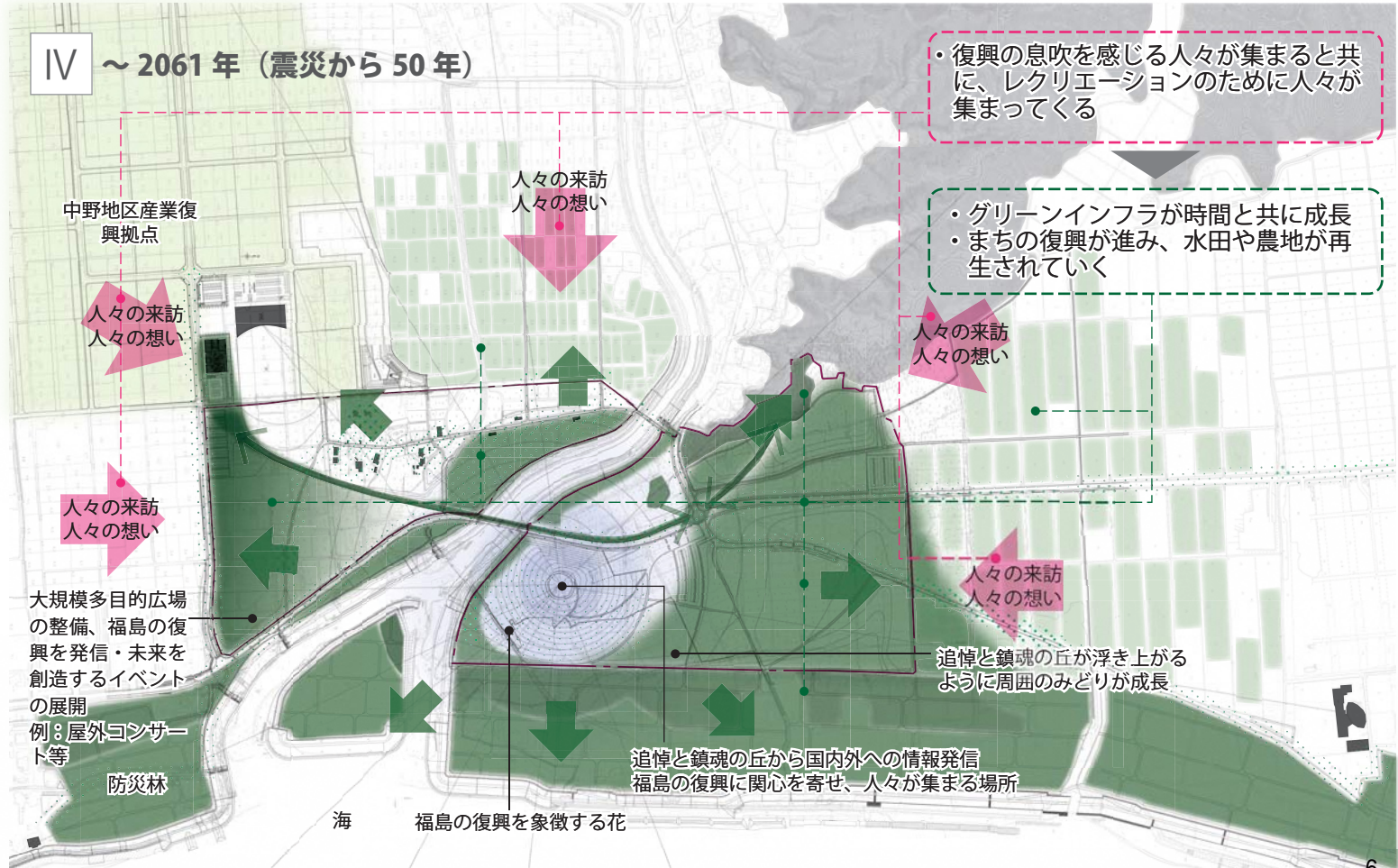
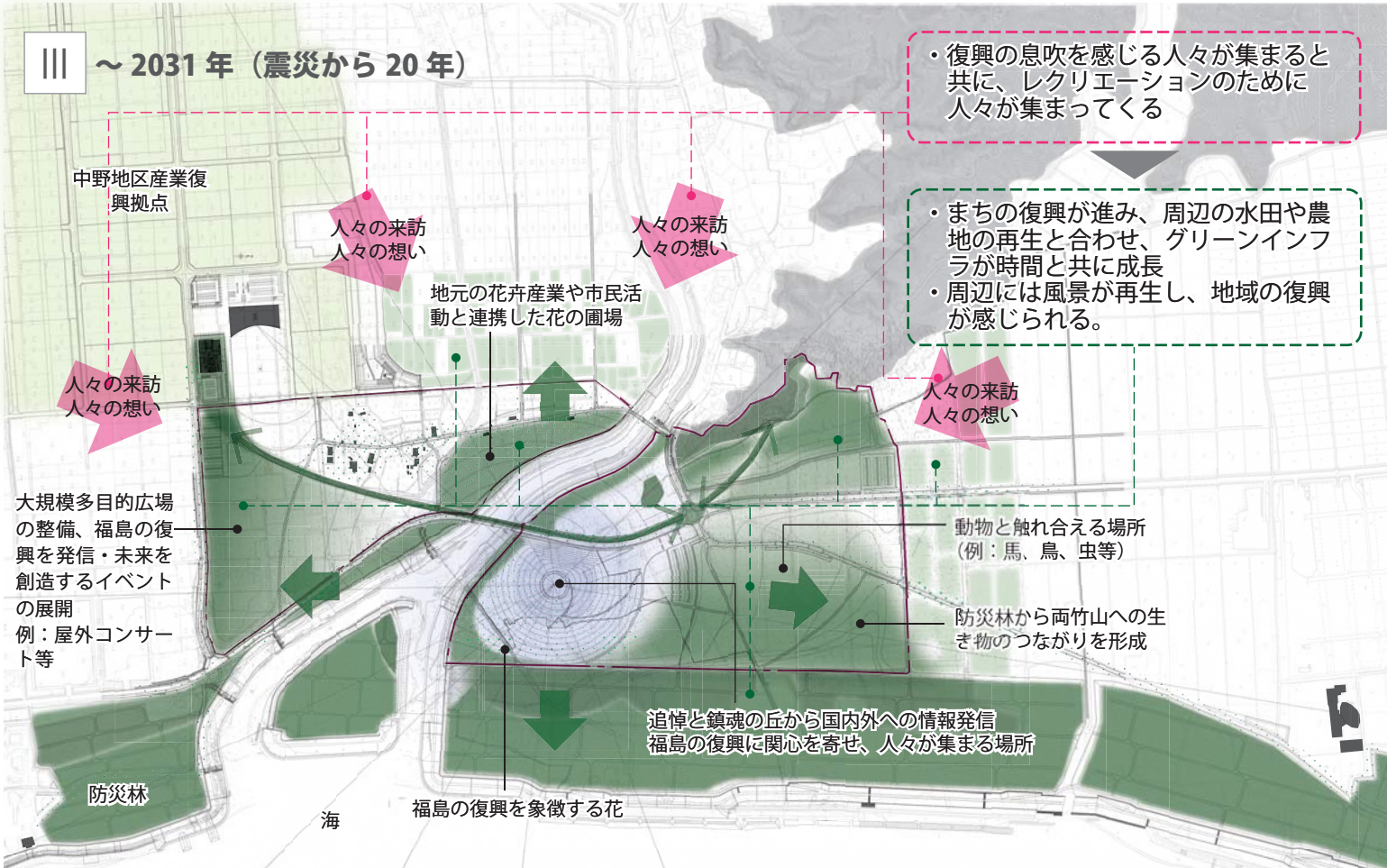
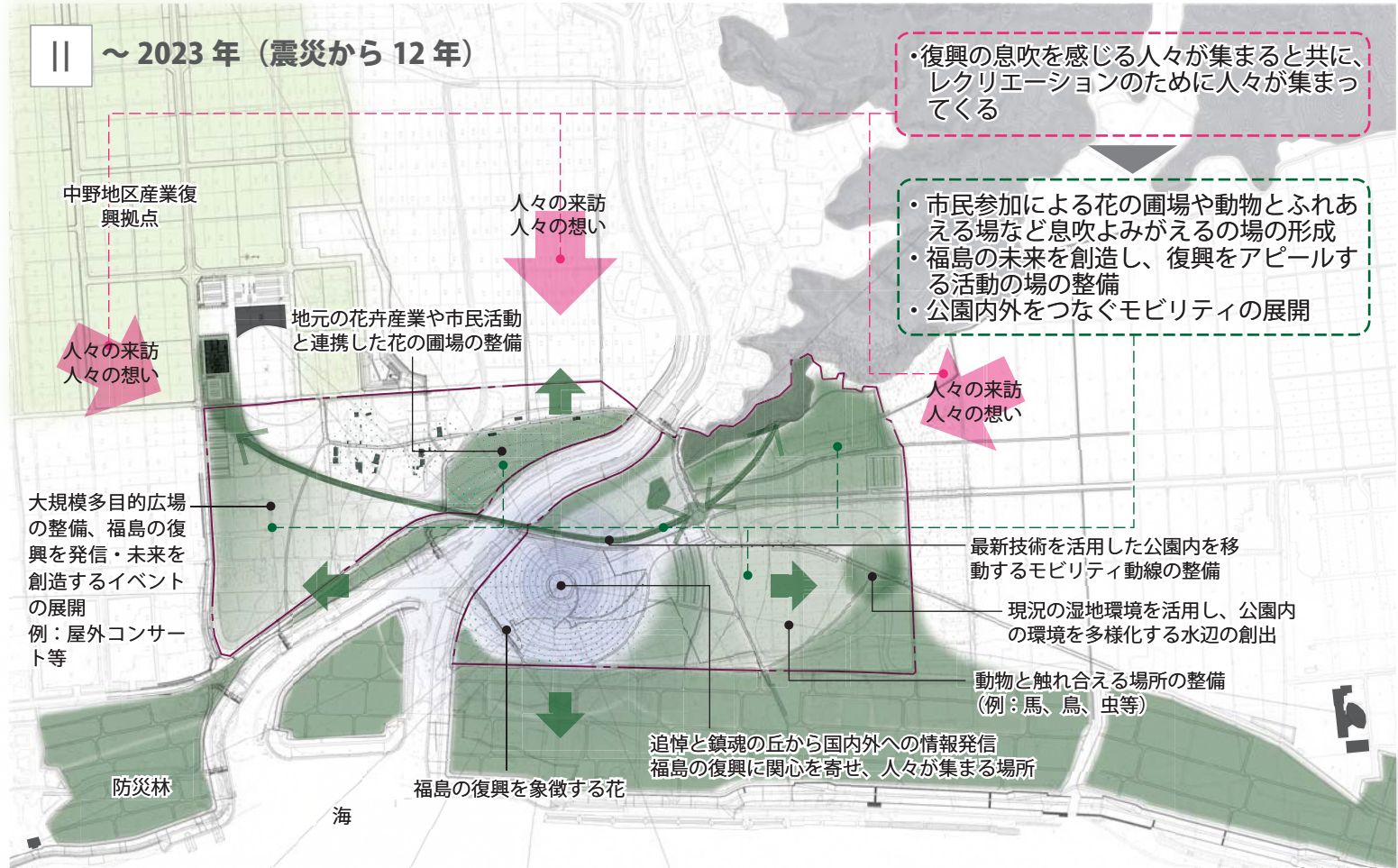
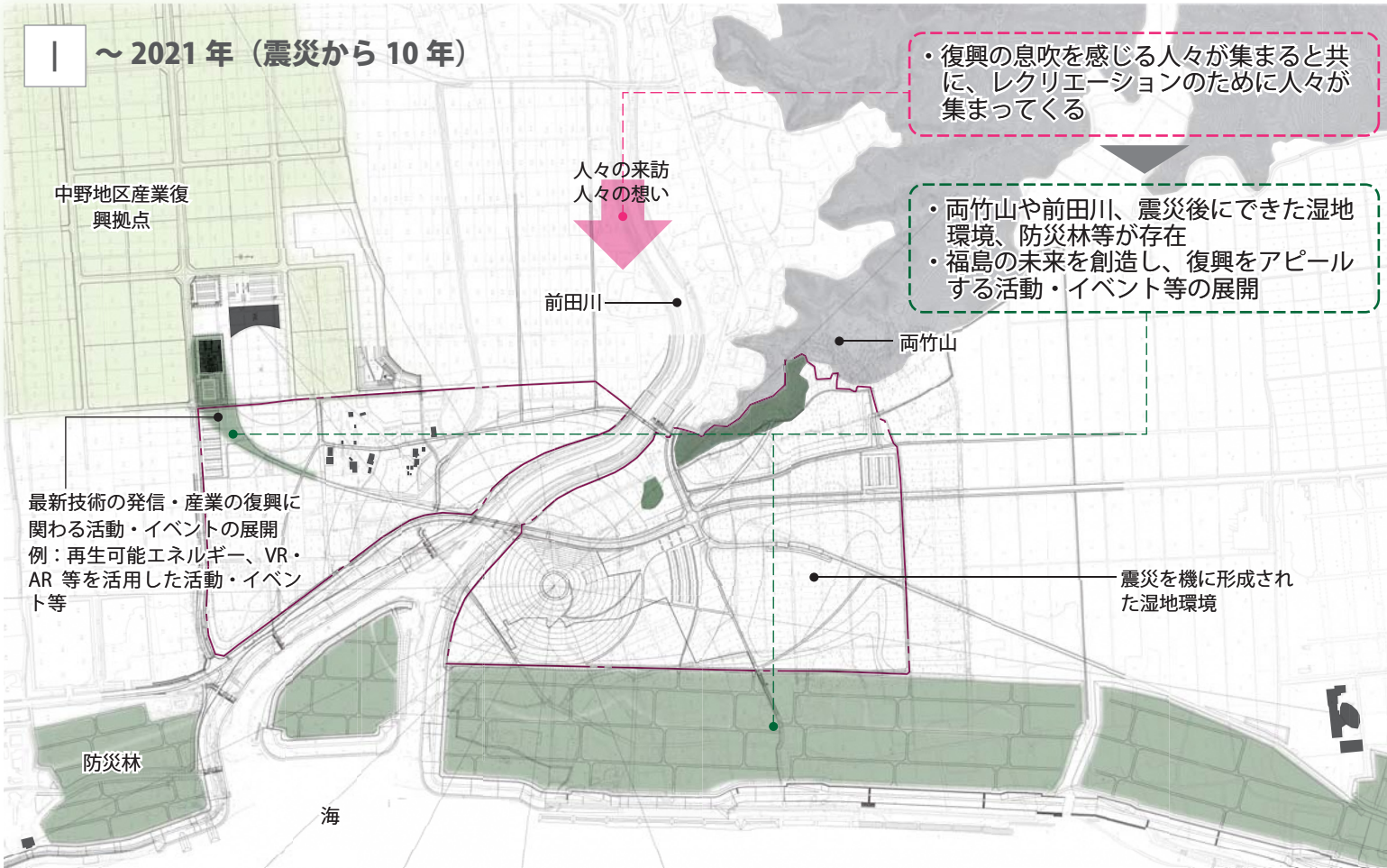


4 息吹よみがえる

【基本方針】
・福島県における生業の再生と軌を一にして、人々がこの地域に戻り、あるいはこの地域を訪れ、地域が再生していくプロセスに関わり、国内外に向けた復興に対する強い意志と支援への感謝と併せ発信する場を整備します。

⇒生業の再生、地域の再生、国内外に向けた復興に対する意志・支援への感謝を発信
+ 最新技術の発信、復興イベント、グリーンインフラ

	I	II	III	IV
生				
事				
録				
息				



位置を考える上での諸条件

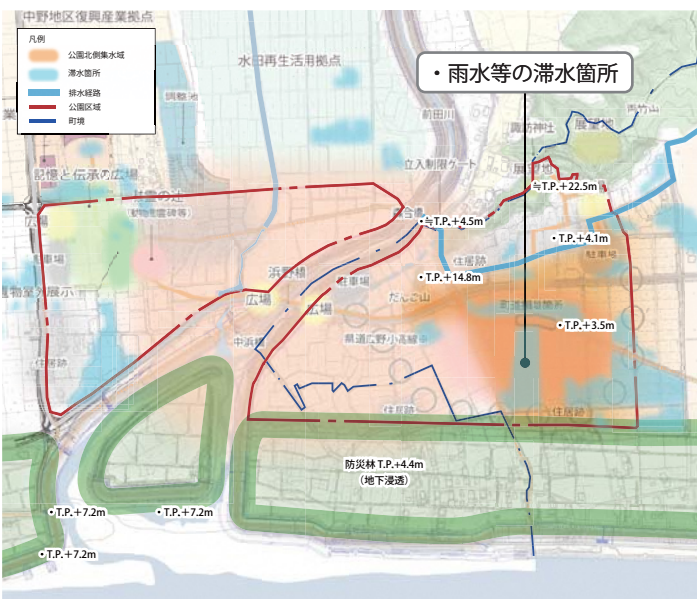
●両竹山の埋蔵文化財への配慮



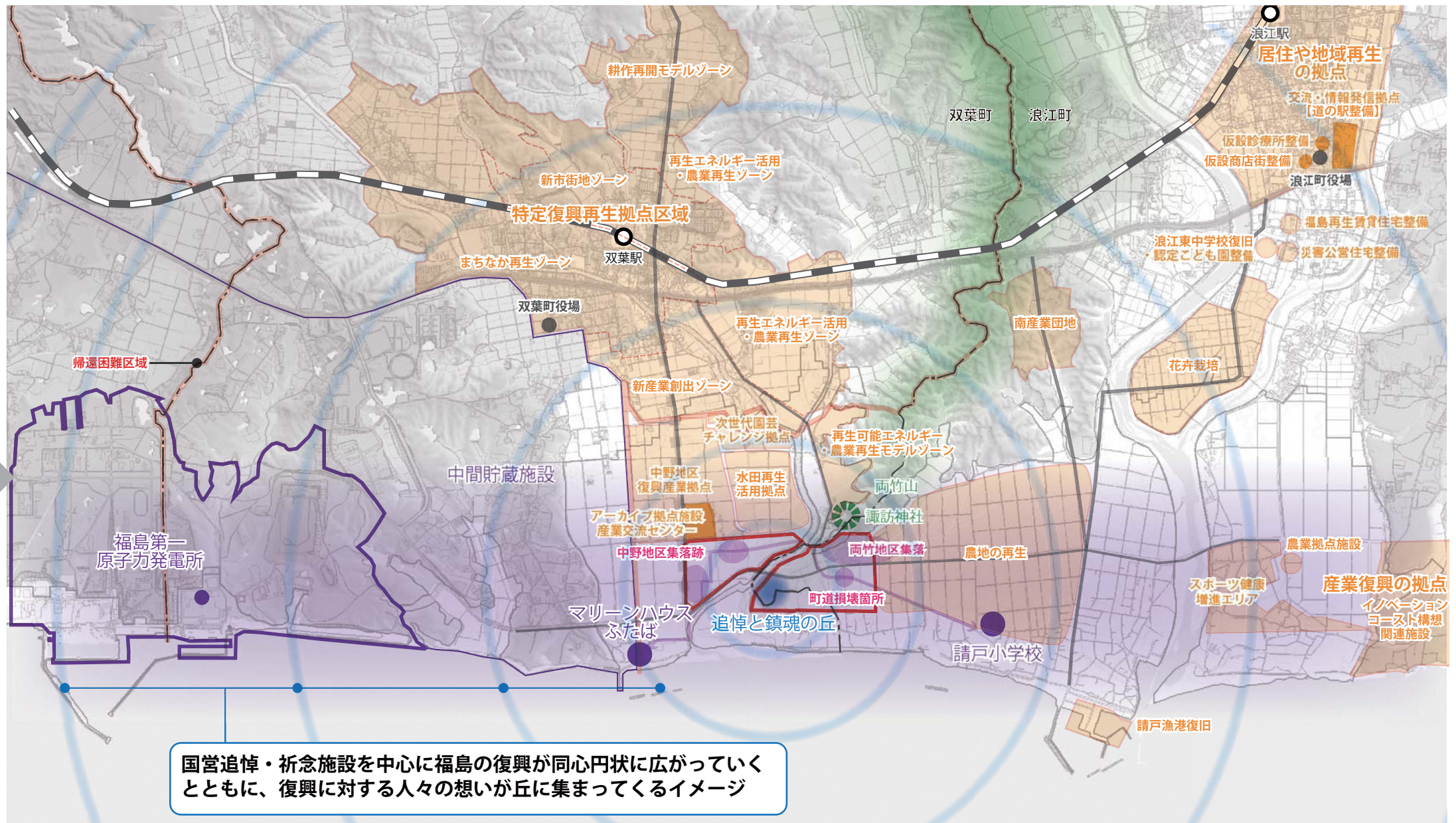
●地質条件



●震災後の雨水滞水箇所



- 国営追悼・祈念施設（仮称）として、追悼と鎮魂の場、震災の記憶と伝承、国内外に向けた復興に対する強い意志の発信といった閣議決定の目的をふまえ基本設計を行っていくことが必要
- 地域の歴史を刻む両竹山を含む丘陵地からの尾根線上と、双葉町・浪江町の両町を結ぶ浜野橋近くの公園中心部から、福島復興が日本や世界に対して波紋のように同心円状に広がっていくとともに、復興に対する人々の想いが丘に集まるというコンセプトのもと、国営追悼・祈念施設（仮称）の位置を選定
- 国営追悼・祈念施設（仮称）では、国内外の人々が集い、震災の犠牲となったすべての生命（いのち）を悼む場として、追悼と鎮魂の場となる丘や広場を整備する
- あわせて丘の上からは、海や集落跡、震災遺構の他、アーカイブ拠点施設や中間貯蔵施設、福島第一原子力発電所の排気筒、防潮堤や海岸防災林を望むことができ、福島における震災の記憶と教訓を実感できる施設とする
- さらに国営追悼・祈念施設（仮称）においては、福島に想いをめぐらせ、福島の象徴である花と出会うとともに、国内外に向けた復興に対する強い意志と支援への感謝を発信する場を整備し、「息吹よみがえる」という公園の基本理念を具現化していく



国営追悼・祈念施設を中心に福島復興が同心円状に広がっていくとともに、復興に対する人々の想いが丘に集まってくるイメージ

追悼と鎮魂の丘について

福島の国営追悼・祈念施設（仮称）の機能

■追悼と鎮魂の場

- 震災の犠牲となったすべての生命（いのち）を悼む場所
- 訪れた人が思いの祈りの方向に向かい祈ることができる場所

■震災の記憶と教訓の伝承の場

- 震災被害の原因となった震源方向や、福島第一原子力発電所の排気筒の他、震災の脅威・被害を伝える震災遺構や住居跡、中間貯蔵施設、防潮堤や保安林を望むことができる場所
- 福島が経験した複合災害の事実や着実な震災からの復興等の教訓を伝え続ける場所

■縁をつなぐ心の拠り所となる場

- 地元を離れて暮らす人々が集まることができ人々の心の拠り所となる場所
- 福島に対する再生と復興の様々な想いを集める中心的な場所

■息吹よみがえるを実感する場

- 福島の復興を象徴する花の広がりにより、公園理念の「息吹よみがえる」を実感できる場所
- 再生していくまちの風景の中に、公園に広がる新たな賑わいや、地域の復興や生業の再生に関わる活動の様子を望むことができ、人々やまちの姿を通して福島の復興を感じることができる場所
- 公園の中核として両町をつなぎ、国内外に向けて福島の復興を発信していく場所
- 福島の過去や未来に関心を寄せ、地域、福島、日本、世界から人々が集まる場所

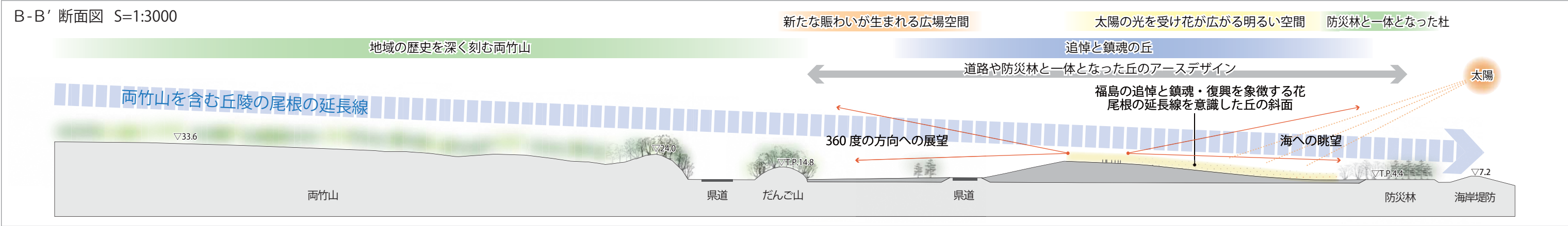
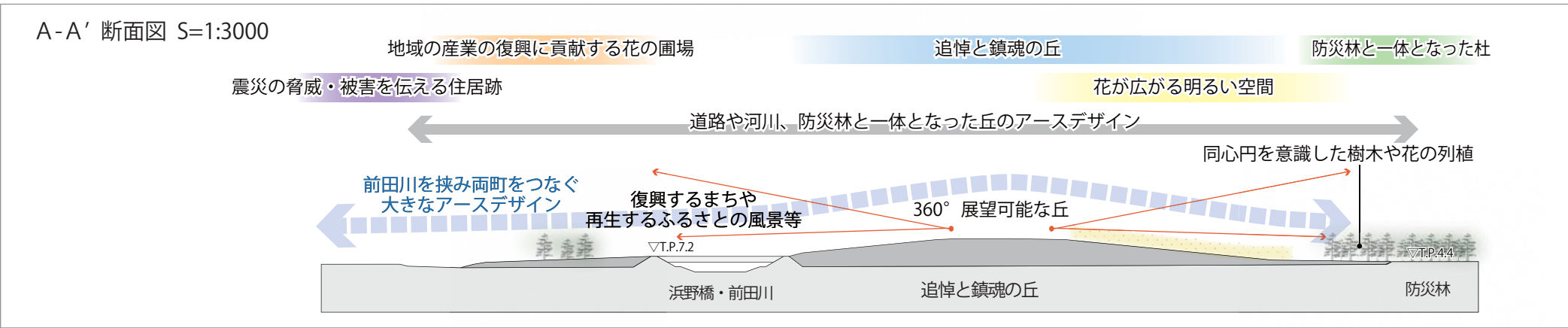
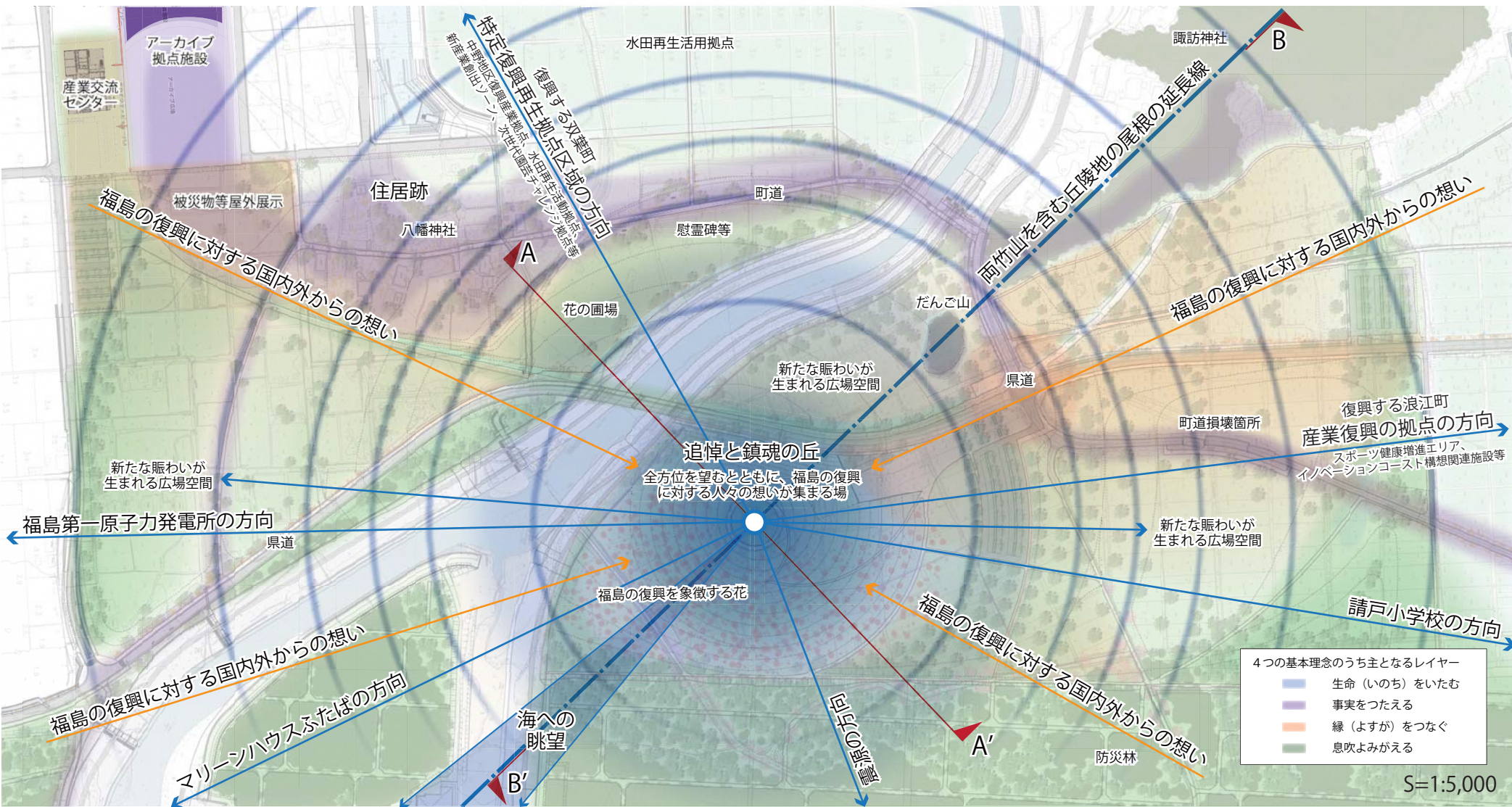
デザインの方向性

■全方位を一望できる追悼と鎮魂の丘の整備

- 公園区域内外に広がる震災の事実を伝える要素や、再生・復興していく双葉町と浪江町、津波がきた海や復興の象徴である花の広がり等、全方位を一望できる丘を整備
- 丘は地域の歴史を深く刻む両竹山を含む尾根の延長線を意識した断面形状

■丘を中心として同心円状に広がるアースデザインの形成

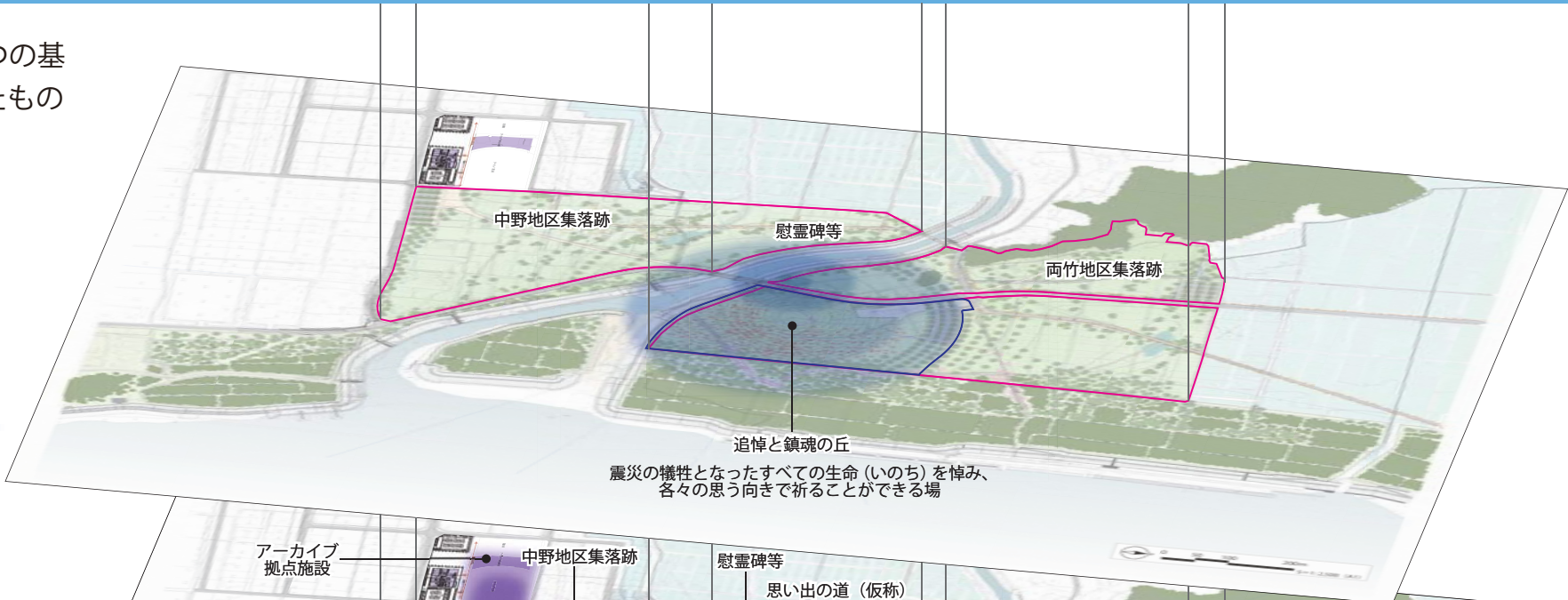
- 丘を中心として地形や樹木や花を公園全体に同心円状に広げていくことにより、追悼と鎮魂の丘を中心とした大きなアースデザインを形成
- 大きなアースデザインにより、両町をつなぎ、道路や河川堤防や防災林と一体となった空間を形成
- 福島の復興が日本や世界に向けて波紋のように同心円状に広がっていくという発信性と復興に対する人々の想いが丘を中心に寄り集まる求心性を表現



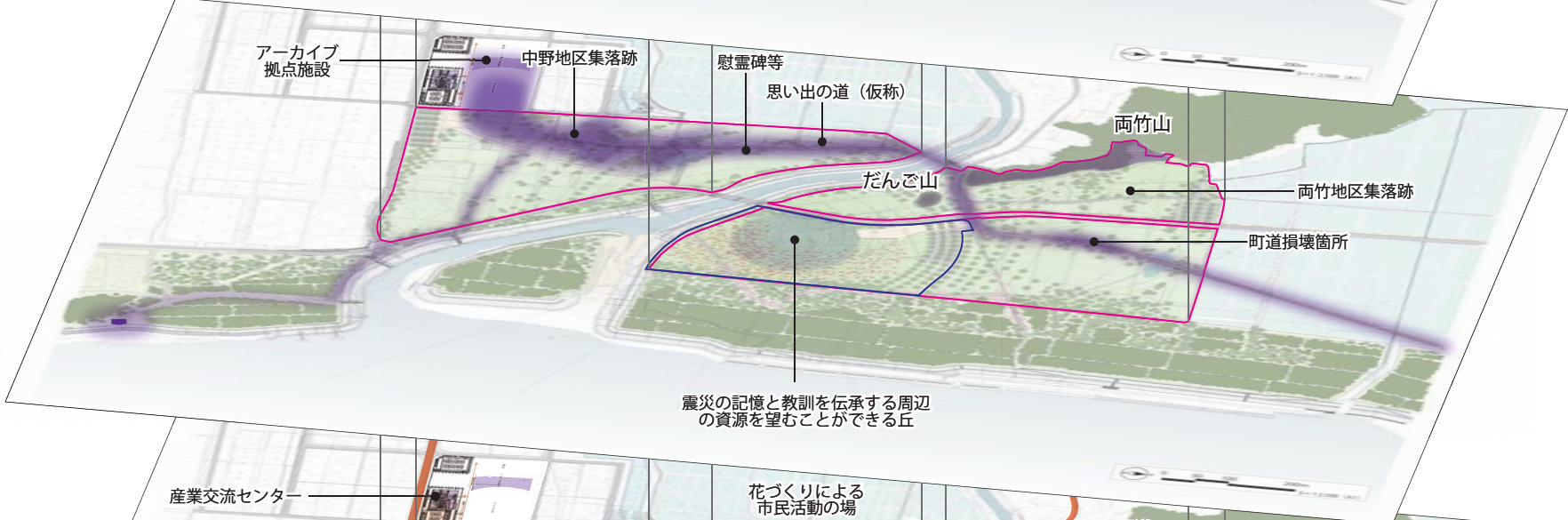
4つの時間軸によって公園の姿は異なるが、ある時点の4つの基本理念で公園の機能をレイヤー化したものを重ね切り取ったものがこの時点における公園の姿となる。

	I	II	III	IV
生				
事				
緑				
息				

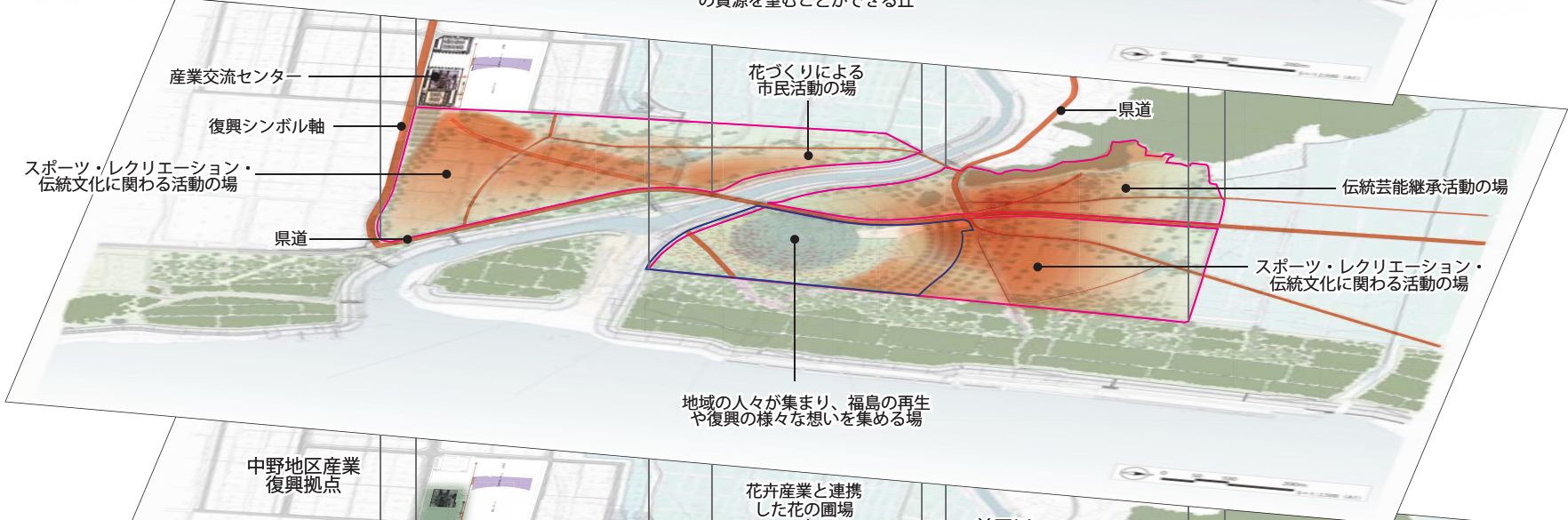
1 生命（いのち）をいたむ



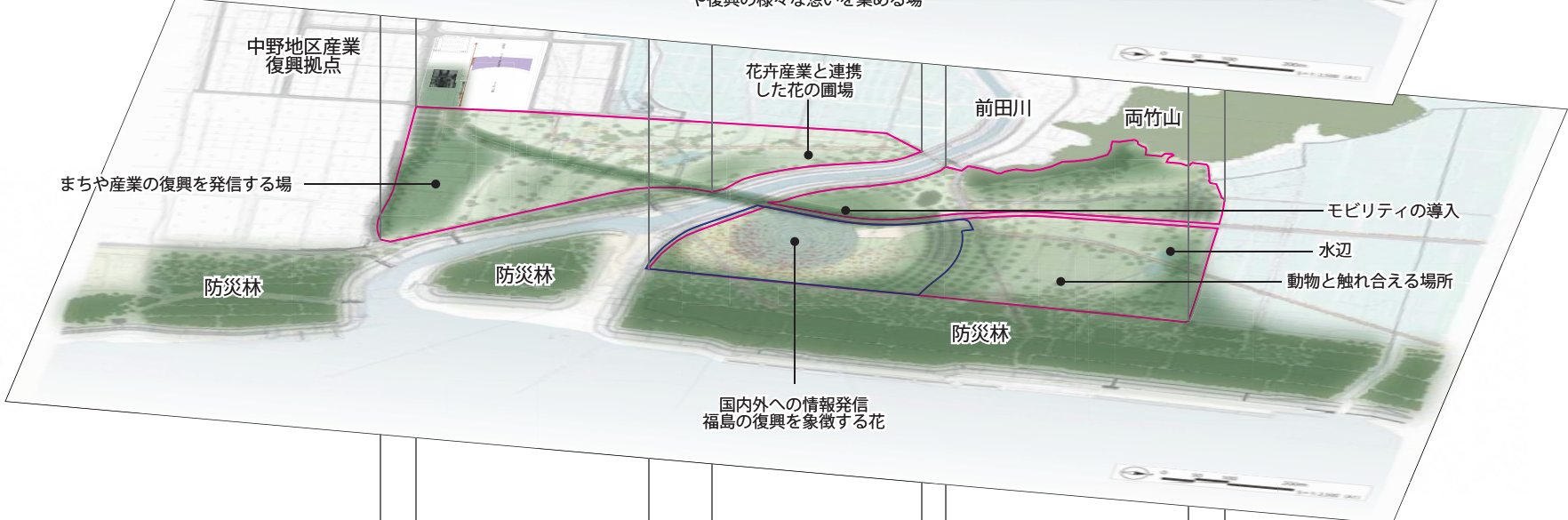
2 事実をつたえる



3 緑（よすが）をつなぐ



4 息吹よみがえる



福島県復興祈念公園基本設計について

たとえば、地元 6 町村の避難指示解除の目標時期である 2023 年（震災から 12 年後）に予想される姿は以下のとおり（各レイヤーの進捗により重ね合わせ時の姿が時間とともに随時変わっていくことを基本とする）

